

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2021096

s2021052

神機構-456

③ 施設名等

名称：	エリザベス・サンダース・ホーム
施設長氏名：	山田 和信
定員：	82名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1948/2/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホーム
職員数 常勤職員：	37名
職員数 非常勤職員：	8名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	17名
有資格職員の名称（イ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	公認心理師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員、自立支援担当職員
上記有資格職員の人数：	各1名
施設設備の概要（ア）居室数：	男子寮3、女子寮3、男女混合寮2
施設設備の概要（イ）設備等：	面談会議室2、医務室、地域交流室、親子訓練室、図書室
施設設備の概要（ウ）：	子育て支援短期居室、心理療法室
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい（ローマ信徒への手紙12章15節）

<事業目的>

日本聖公会の伝えるキリスト教精神に基づき、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行う

<運営理念>

キリスト教精神に則り、子どもたちの人格と個性を尊重するとともに、一人ひとりの自己実現を図り、豊かで広い知識と教養を身につけて成長し自立した社会人として地域生活が送れるよう支援する

<運営指針>

- ・キリスト教精神に基づく福祉事業として児童養護施設を運営する
- ・子どもの権利を擁護し、人として尊重され、かつ安全で安心した日常生活を営むことを保障する
- ・社会人としての自立した地域生活を営めるような、困難に負けない心と身体を育成する
- ・成長過程のそれぞれの状況に合わせて自分らしく生活できる環境を用意し共に生きる力を育てる

⑤ 施設の特徴的な取組

○児童養護施設の職員は、子どもの権利擁護が基本であるという意識のもと、職員は「就業規則」やホームの「生活支援ハンドブック」を各自所持している。「生活支援ハンドブック」は、機会あるごとに内容を見直し、コロナ禍前には、寮会議や部署別会議で読み合わせを行っている。また、ホーム独自に、幼児向けや小学生向け、中学生向け、高校生向けの「権利ノート」を作成し、担当職員から子どもたちにわかりやすく説明している。

○さまざまな体験や複雑な背景を抱えて、入所してきた子どもが多い。心に傷を負い、ホームの生活の中でも暗い影を落とす子どもの状況を、全職員が一人ひとりをよく把握し、子どものつらい心に向き合いながら支援している。日々の生活の中で、子どもが感情を職員にぶつけてきたときにははっきり受け止め、子どもの話を担当やリーダーの職員などがよく聞き、落ち着くのを待っている。

○子どもたちとは、次年度はどういう生活がしたいか、どんな目標を持つかなど話し合い、子どもたち自身に考えてもらっている。日々の生活の中では、自分の意見を言い合える場を作っている。コロナ禍の中、一般家庭の子どもは外に出ているのに、なぜ外出できないのかなどの意見が出た時には、子どもたちが話し合い、携帯用のアルコールを持つ、マスクケースを持つ、店の前のアルコール消毒は必ず使用するなどのルールを決め、ショッピングや映画に出かけている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/5/9
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/2/8
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度（和暦）

⑦総評

○エリザベス・サンダース・ホームは、戦後まもなく混血乳幼児収容施設として設立され、その後は創設者澤田美喜の精神を継承し、児童養護施設として子どもたちの養育・支援にあっている。施設の敷地は広大で緑に恵まれ、児童養護施設に関連する建物の他に、澤田美喜記念館や礼拝棟、認定こども園あおばと、聖ステパノ学園が敷地内に点在している。また、設立当初の棟には、母の日や澤田美喜の誕生日などに「ママちゃまの日」として、卒園生が自主的に集まり交流を深めている。

○子どもたちは、男子寮3、女子寮3、男女混合寮2の8つの寮で生活を送っている。各寮8～10人の縦割りの編成で、高学年の子どもは小さい子どもの面倒を見て、小さい子どもは大きい子どもに遊んでもらい、兄弟姉妹のような関係の中、のびのびと生活している。8つの寮を3ブロックに分け、専属の職員を配置しているが、ブロックリーダーやサポーター、里親支援専門相談員や家庭支援専門相談員、自立支援担当職員などの専門職がフォローする体制を整えている。

○日常生活の中で食事マナーなどを指導し、誕生日には担当職員と外食をするなど、社会のルールを学んでいる。小学校高学年くらいになると、洗濯をやってみようかなど自主的にやってみようという気持ちが出てくる。そのような機会に洗濯機の使い方を指導したり、家電の使い方を説明している。基本的に自分の部屋の掃除は自分で行い、低学年児は職員と一緒にやっている。

○自立のための準備として、小学生には生活の中で、食器洗いなどできることを増やしている。中学生になると、高校進学を考え相談をしていくことが多くなる。進学するための情報を提供しながら、金銭面の相談、通学距離の問題など、主に寮の担当職員と話し合いを行っている。高校生になると、卒園や一人暮らし、就職、進学について、具体的に相談をすることが多くなる。

○食事は厨房棟で調理して、各寮の職員が三食受け取りに行っている。食事は色彩が豊かになるように工夫して盛り付けている。ご飯は寮内で炊き、子どもに合わせた量を提供している。ハロウィンやクリスマスには、栄養士が何が食べたいかを聞き取り、リクエストメニューとして献立に反映している。毎週日曜日は、ホットケーキやドーナツなど、職員と一緒におやつを作り楽しんでいる。

○日々の学習は、時間を決めて、職員がプリントを作成したり、宿題をみたりして、定期的に指導している。自分から塾に通いたいと希望する中学生は、塾に通っている。地域の公文式学習に通っている小学生もいる。大学受験のため予備校に通っている高校生もいて、学習意欲が高い子どもが多い。

○毎日の生活の中で、職員が子どもたちの健康チェックを行っている。発熱などの体調変化があるときは、すぐに看護師に連絡して、受診するか様子観察かを決めている。受診の場合は担当職員や看護師が付き添い、かかりつけ医で診察している。感染症の場合は、家族支援棟や閉鎖棟などを使用し隔離している。その他の場合は、自室で安静にして様子を見ている。

○ホーム内に2名の心理士を配置して、心理的ケアが必要な子どもに対し、心理療法室を使って心理的ケアを行っている。心理的ケアは主に面接形式をとっている。心理療法室では、子どもたちは落ち着いて面接を受けている。また必要に応じて、児童相談所のケースワーカーと連携し、状況を共有している。

○家庭への復帰は、担当職員と家庭支援専門相談員が、家庭復帰への手順を踏んで、面会や外出、ホームの支援棟を使った宿泊訓練、1週間くらいの外泊、間隔をあけて半月くらいの外泊、児童相談所のケースワーカーを含めての振り返り、職員から子どもへの家庭復帰の意思確認、児童相談所のケースワーカーから家族への意思確認、転校手続き、家庭復帰の流れで行っている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

全体的に実質的な支援結果を基準として評価する傾向があり、出来ている出来ていないの評価基準ではなく、職員個々の評価と各セクションの評価を構造的・過程的側面から評価分析している。全体へのフィードバックは、評価結果を評価案と比較する事でプラスの側面に気づくことを目的としている。施設の発展、質の向上につながるものとして有効活用することで、より良い施設づくりに向けた具体的取り組みの実現を目指していく。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>法人の理念や基本方針はホームページに掲載するとともに、施設の玄関に掲示している。また、事業計画書にも掲載し、4月の職員会議の場で職員への周知を図っている。理念に基づいた統一した支援を提供するため、「生活支援ハンドブック」を作成し、事務所やそれぞれの部署に置いている。「生活支援ハンドブック」には、理念や基本方針も掲載している。家族には子どもの入所時に説明し、子どもたちには施設独自の「権利ノート」を作成し、内容の説明の中で、法人の理念にも触れている。施設独自の「権利ノート」は、子どもの年齢に合わせ、幼児向け、小学校低学年向け、小学校高学年向け、中学生向け、高校生向けと複数用意している。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>月1回開催する、各部署の代表者が集まる調整会議の場で、入所数の把握や暫定定数、運営状況の確認を行っている。施設経営をとりまく環境の変化については、他施設にも状況を確認している。理事会及び評議員会で予算を決定し、11月には会計士による中間監査があり、経営上のアドバイスを受けている。1年間の状況は、施設長が事業報告書にまとめ、内容を職員に説明している。行政からの通知など、新型コロナウイルスに対する対応にも変化があり、判断が難しいことがある。</p>	
<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

すべての職員の意見を集約して、事業計画を作成し、経営課題を含め重点目標を立てている。重点目標には新しい取り組みも入れているが、年間で達成できる具体的な内容としている。事業計画や予算は、理事会、評議員会で決定している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

国の動向や、県の「社会的養育推進計画」策定の動きを確認しながら、中・長期的なビジョンを立てている。ビジョンは理事会、評議員会で決定し、積立金の計画や子どもたちのアフターケアなどを位置付けている。子どもたちのアフターケアは事業計画に組み込み、4月の職員会議の場で、職員全体に周知している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

年末の部署別会議や、個人別のヒアリングを通して職員の意見を聴き、年明けから事業計画の作成に入っている。事業計画は案を施設長がまとめ、理事会に諮っている。単年度の事業計画書は、2月の辞令交付時に職員に配布しているが、リーダーにはそれ以前に内容を説明している。また、4月の職員会議で、あらためて職員全体に内容を説明している。子どもたちの声や職員の思いをすべて計画に盛り込むのは、予算との関係で難しい面もあるが、今年度、施設内の広場にて、8月に納涼祭を開催している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、年間で実現できる具体的な取り組みとしている。また、事業計画のうち、権利擁護など、全体に関するものはプロジェクトを組んでいる。プロジェクトは取り組みの状況を報告書として提出するとともに、施設長からも状況を確認している。防犯に関する取り組みは警察の生活安全課、権利擁護に関する取り組みは児童相談所に相談したり、連携したりして取り組みをすすめている。次年度も継続するプロジェクトもある。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

子どもたちや保護者に対しては、事業計画の説明は行っていない。保護者に対して、どこまで説明するか迷うところもある。行事の開催などについては、適宜子どもたちにインフォメーションしている。小学生、中学生、高校生に分かれて自治会があり、話し合いを行っている。子どもたち自身が決めたルールは厳しく、また、子どもたちはよく守っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

日々の担当者間の話し合いの他、月1回、部署別会議や調整会議、職員会議を開催して、養育・支援の質の向上に努めている。平日は朝の会でミーティングを行い、ケース会議は随時開催している。また、虐待防止のセルフチェックとして、全国児童養護施設連絡協議会のセルフチェック用紙を活用している。子どもたちの自立支援計画の策定に関しては、子どもも参加し、定期的に状況を評価している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

施設が取り組むべき課題は、支援現場の職員が参加し、抽出、点検、評価を行っている。評価結果に基づいた課題は文書化し、職員間で内容を共有している。日々の養育・支援の場で取り組むことができる課題については改善に努め、改善の取り組みは事業計画に反映している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b

<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長の役割と権限は「管理規程」に定めているが、広報誌や会議、委員会などで特に表明はしていない。職員の自由な意見を汲み取るため、部署別会議にはあえて参加せず、調整会議から施設長が参加するようにしている。施設長不在時の権限委譲は、基本的に副施設長とし、法人全体に関わる問題は理事長に諮ることとしている。災害など有事の際の施設長の役割は、防災関係の書面に明記している。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

全国及び関東ブロックの施設長研修に参加し、遵守すべき法令などの理解に努めている。児童福祉法の改正や、福祉新聞などの情報は、職員会議の場や、朝の会でタイムリーに職員に伝えている。アフターケアに関する勉強会にも参加している。公的機関からのメールによる情報は、職員に必要な情報をピックアップして、パソコンで閲覧できるようにしている。顧問弁護士や社会保険労務士にいつでもアドバイスを受けることができる体制も整えている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちが参加する行事には、施設長もでき得る限り参加している。養育・支援の現場の事柄は、子どもたちの入退所を含め、各ブロックのリーダーに決定を任せている。日常の養育・支援のあり方は職員が自分たちで考えることを尊重している。施設長自身、支援現場の経験が長いことから、職員の考える機会を奪わないよう、カンファレンスなどの施設長参加は自重するようにしている。職員研修の充実を図り、研修委員会とブロックリーダーが外部研修参加者の人選をするとともに、内部研修では職員全員が講師を担えるようプログラムを組んでいる。内部研修については職員の反応も良好と捉えている。職員に対し、常に施設長の学ぶ姿を見せるようにしている。

② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

子どもたちへの養育・支援の体制は、こういった形が良いか、体制検討委員会で検討を進めている。検討委員会のメンバーは、同じ部署のメンバーでかたまりなよう留意し、立候補で募ることとしている。職員それぞれ働き方のニーズが異なるが、子どもたちにとって何が最適かを中心において検討している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

ホームページや求人ページを活用して、施設長と事務職が中心になり人材の募集を行っている。学校のオンライン説明会では、若手の職員も先輩職員と一緒に参加し、児童養護施設での働き甲斐などをアピールしている。現在、法定の人員確保はクリアしているが、プラスアルファの人員確保には苦労している。ただし、人が人を支援する職場であることから、採用の基準は妥協しないよう心掛けている。採用試験では、筆記試験の他、コミュニケーション力などを確認する実技試験も取り入れている。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

人事基準に基づき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度などを評価している。施設長と職員の面接は年1回、夏から秋にかけて行い、面接に際しては、仕事の満足度や改善点、要望、やりがい、今後の希望など、意向調査も実施している。職員の目標設定にあたっては、子どものことはリアルタイムなので、形式的な目標にならないよう留意している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○

<input type="checkbox"/>	職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
<input type="checkbox"/>	定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/>	職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
<input type="checkbox"/>	福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

職員の勤務状況や有休休暇の取得状況はデータ化して、見える化を図っている。年に1回、職員が1週間程度の長期休暇を取れるよう取り組んでいる。職員の勤務表はブロックリーダーが作成しているが、有給休暇の希望などにも対応している。職員の雇用形態にも配慮し、常勤、非常勤の働き方について、夜勤の回数など、給与があまり変わらないよう取り組んでいる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
<input type="checkbox"/>	個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

法人の支援方針を目指すことを、職員に期待している。施設長と職員の定期面接の他、適宜ブロックリーダーと職員の面接を行っている。ブロックリーダーとの面接は、形式的にならないよう留意し、職員と同じ立ち位置で悩みを聴き、信頼関係を築いてほしいと思っている。今年度、リーダーが替わったこともあり、よい意味で職員との垣根を取り外し、相談が当たり前になる職場になるよう、施設長から働き掛けている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<input type="checkbox"/>	施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
<input type="checkbox"/>	現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
<input type="checkbox"/>	策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
<input type="checkbox"/>	定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
<input type="checkbox"/>	定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

研修委員とブロックリーダーが外部研修の参加者を選んでいるが、研修の参加は基本的に自己啓発の場と捉え、職員自ら積極的に参加を希望してほしいと思っている。内部研修は研修委員が企画し、職員全員が講師を担えるようプログラムを組んでいる。内部研修については職員の反応も良好と捉えている。職員の教育、育成のため、外部及び内部のスーパーバイザーを置き、心理職もフォローしている。また、各ブロックのリーダーやサポーターが、OJT(仕事を通しての指導)を行い、職員の育成にあたっている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/>	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	

<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

内部研修は年10回開催し、外部研修はコロナ禍でオンライン研修が多かったが、現在は元に戻りつつある。外部研修に参加した職員は研修報告書を提出し、ブロック内で内容を報告している。また、必要なもの、重要なものは、職員会議の場で研修報告を行い、全体で内容を共有している。研修報告書は綴り、事務室に置いて、職員がいつでも内容を確認できるようにしている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習担当職員が受け入れの窓口となり、実習生の受け入れやオリエンテーションなどに対応している。新型コロナウイルスの蔓延により、実習生の受け入れは少なくしたが、15校ほどから受け入れを行っている。実習生の受け入れは、就職につながることもある。また、実習生の質問に答えたり、自分の支援内容を言語化する必要もあり、職員にとっても勉強の場となっている。児童養護施設として、次世代の育成に協力することは義務と捉えている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページや広報誌を通じて、運営の透明性を確保するための情報を公開している。また、テレビなどの取材にもできるだけ協力している。広報誌「かけはし」は年2回600部発行し、関係機関やボランティア、施設運営の協力者などに広く配布している。地域に向けては、掲示板を設け、施設の状況を報告している。町の福祉計画の作成には、施設長も参加している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

年2回内部監査を行い、規程類を整備している。監査結果は、実務面でできていることを含め、職員に内容を説明している。収支に関しては、ホームページなどで情報を公開している。顧問弁護士や社会保険労務士に、いつでも相談ができる体制を整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

町主催のソフトボール大会や海岸清掃、地引網、防犯教室などに子どもたちと職員が参加して、地域の人々との交流を深めている。防犯教室では、警察に協力しパトロールも行っている。また、地域のお祭りでは、お神輿が施設を訪れている。子どもたちは、塾や絵画、公文式学習など、地域で習いごとも行っている。子どもの職業体験や、プチ大磯の催しにも参加している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ボランティア委員会を置き、マニュアルを整備してボランティアの受け入れを行っているが、現在はコロナ禍のため、受け入れを中断している。これまでは、学習ボランティアや遊びのボランティア、理容のボランティアを定期的に受け入れ、不定期だが数か所の企業の清掃ボランティアの活動を受け入れている。コロナの状況を確認しながら、ボランティアの受け入れを再開したいと考えている。また今後は、企業のCSR活動（社会貢献活動）に協力し、一般企業にも是非、社会福祉の現状を知ってもらいたいと思っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

学校や児童相談所、病院などとは、必要に応じて、連携を取るよう努めている。子どもたちのアフターケアについては、地域や他施設との連絡会にて連携している。OB会の協力を得るとともに、企業の社会貢献活動をつなげる特定非営利活動法人や、県内の社会的養護の施設長協議会とも連携している。今後は、大学との関係作りを目指している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	c
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="radio"/>

【コメント】

要保護児童対策地域協議会には、代表者会議に施設長が、実務者会議に職員が参加している。また、町の福祉計画の策定に施設長が参加し、地域の福祉ニーズの把握に努めているが、十分とは言えない。今後は、里親の支援を含め、積極的にアウトリーチ（地域に向かう活動）していきたいと考えている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

コロナ禍前は、地域の幼稚園の懇談会に会議室を提供したり、こども園の子どもたちに遊び場を提供していた。防災関係では、自治会の備蓄品倉庫の設置場所に敷地内を提供する他、津波の一時避難場所としている。今後は、国の方向性を確認しながら、里親への支援や、一時保護の受け入れなどを検討していきたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1)	子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもへの支援にあたっては、「子どもの目を見て話をする」「子どもたちの意見を聴く」姿勢を大事にしている。毎月、ブロック会議を開催し、職員が情報を共有している。また、養育・支援にあたっては、子どもの年齢に配慮している。4か月に1回、子どもたちにアンケートを実施し、「楽しかったこと」「つらかったこと」「学校の様子」などを確認している。アンケートは満足度を1から10の数字で答えられるように工夫して、実施している。基本的人権への配慮については、コロナ禍前には外部研修に積極的に参加している

②	29 子どもプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「生活支援ハンドブック」に、プライバシー保護に配慮した養育・支援について記載し、職員はそれらを遵守して支援している。子どもたちの居室には鍵がついていないため、職員は必ずノックしてから入室している。幼児の入浴を介助するときには、児童相談所、保護者から同意を得て実施している。子どもに手紙が届いたときは、宿直室にて子どもと一緒に開封している。保護者に対しては児童相談所のケースワーカーを通して、手紙の扱いを説明している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設見学の際には、実際に居室を見てもらい、ここで生活することを確認できるようにしている。通学する学校を選択は、実際に学校を見学して本人の希望を確認し、児童相談所のケースワーカーと職員が相談して決めている。子どもに提供する資料は、理解が難しい部分もあるので、今後は絵や写真などを取り入れていきたいと考えている。コロナの感染リスクもあり、保護者会は行っていない。家族再統合を目指している子どもの保護者には、学校や施設行事などの情報を提供している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="checkbox"/>

意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。

【コメント】

自立支援マニュアルを整え、一人ひとりの子どもに合わせたわかりやすい説明をしている。子どもに障害があり、生活困窮やネグレクトで入所したケースなどは、保護者も入所に至った経過を理解していないことがあるため、入所後に話し合いを行いながら、現状を認識できるようにしている。

③

32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。

b

養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。

他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。

施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。

施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

【コメント】

家庭への移行はステップを踏んで対応している。子どもの部屋の有無や、一緒に生活できるか、児童相談所と連携がとれるかなどを確認している。家庭へ移行する際の引き継ぎについては、文書及び口頭で行っている。転校先の学校ともカンファレンスを行っている。退所後、小さい子どもには連絡をとることができないため、児童相談所から情報を入手し、状況を把握している。卒園した子どもや、家庭に帰った子どもの相談窓口として、アフターケアの職員と子どもの元担当職員が協力して対応している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①

33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。

a

子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。

子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。

職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。

子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。

分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。

【コメント】

小学生、中学生、高校生に分かれて集まりを開催し、子どもたちが話し合いを行っている。子どもたちからは、携帯電話の使い方、外出のこと、小遣いの使い方などの希望が多く出る。行事のリクエストメニューなどを聴き取り、できるだけ希望に添えるようにしている。また子どもからの相談は、基本的には担当職員が受ける仕組みとしているが、相談する職員を選ぶことができるようにしている。ESH（環境と安全）アンケートの実施で子どもたちの要望を聴き、子どもたちと一緒に実現できるよう考えている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①

34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。

a

養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。

苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。

苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。

苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。

苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。

	○
--	---

【コメント】

苦情解決の仕組みを整え、玄関に掲示している。入所にあたって、子どもたちは児童相談所のケースワーカーと「権利ノート」の読み合わせを行っている。また、各寮に意見箱を設置し、内容の確認は心理士として、心理士が子どもと面接している。苦情の内容は、日誌に記録している。また保護者からの苦情は、児童相談所と連携して対応している。子どもの思いに寄り添って支援を行うことが、質の向上につながると捉えている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	a
		○

【コメント】

子どもからの相談の対応方法について、権利ノートや玄関などに掲示している。子どもたちには、担当職員以外の人でも相談ができることを伝え、子どもたちが相談する職員を選択できる仕組みを作っている。相談場所も、事務所の面談室や宿直室などを選んでもらっている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。 <input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。 <input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。 <input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。 <input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	a
		○
		○
		○
		○
		○
		○

【コメント】

意見箱の設置や、子どもが相談しやすい仕組みを整えているが、物理的な面もあり、相談場所など十分であるとはいえないと考えている。「生活支援ハンドブック」には、帰宅時間や病気になった時の対応、子どもから話を聞く体制などの記載があり、それを遵守するとともに、先輩職員から助言を受けて、子どもたちの養育・支援にあっている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
--------------------------------------	-------------

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもたちの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	b
		○
		○
		○
		○

【コメント】

リスクマネジメントの責任者は施設長としている。リスクマネジメント委員会は設けていないが、日々のリスクをまとめ、専門職やリーダーと話し合いながら、再発を防止している。また、ヒヤリハット報告書の内容は、職員会議で報告し、予防策を検討している。AED研修や、消防署協力の消火訓練、SNS利用の仕方などの研修を開催している。リスクマネジメントに関する県の通知などは、パソコン内で閲覧できるようにしている。また、ESH（環境と安全）に取り組んでいる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

感染症に関する対策として、職員会議の場で、ビデオを観たりして知識を深めている。また、看護師を中心にして、日々、換気やガランテクニック（感染症の予防）に取り組んでいる。感染症の対策は、「生活支援ハンドブック」にも記載してあることから、職員は「生活支援ハンドブック」を参照している。感染症が発生した場合は、フローチャートに沿って、看護師から施設長・副施設長、各リーダー、すべての職員へ周知し、対応することを決めている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、避難訓練（火災、地震、土砂崩れ）を予告なしで実施している。避難訓練では、児童表をもとに点呼して、子どもたちの安否を確認している。災害の発生に備え、各寮に飲料水を置き、防災倉庫に非常食などを備蓄している。非常食は栄養士が管理している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

標準的な支援のあり方については、「生活支援ハンドブック」に記載し、職員は新任研修などで学んでいる。また、こどもたちの養育・支援の場面で、判断に悩む場合には、先輩職員がフォローする体制を整えて、標準的な実施方法についても伝達している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

子どもたちの養育・支援のあり方は、定期的に行うブロック会議などで、職員が意見を述べて、内容を調整している。また、子どもからの意見についても、職員会議で協議し、実施方法の検証や見直しにつなげている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画は、看護師や心理士も参加し、医療やメンタル面の支援も含めて策定している。また、内容は児童相談所と共有している。子どものニーズに対する計画は、年間で実現できるよう取り組んでいる。策定の会議には、子どもや保護者が参加することもある。精神疾患を抱えている子どもは、児童養護施設だけでは対応が難しい面もある。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

子どもの自立支援計画は、定期的に見直している。子どもの状況の変化により、随時見直しも行っている。自立支援計画の緊急な変更が必要なケースは、家族との関係が多く、家庭に帰省する際には、家庭調整会議を開催し、児童相談所に報告している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
---	----------------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
<input type="checkbox"/>	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
<input type="checkbox"/>	パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもに関する養育・支援の記録は、職員がパソコンに情報を入力し、職員全体で内容を共有している。記録の書き方については、マニュアル化はしていないが、子どもの言葉はそのまま逐語で記録することになっている。また、子ども同士が喧嘩した場合などは、相手の子どもの名前はイニシャルで記録している。保護者からの電話など、気になる事柄は、赤字で記録している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
<input type="checkbox"/>	個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
<input type="checkbox"/>	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
<input type="checkbox"/>	記録管理の責任者が設置されている。	○
<input type="checkbox"/>	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/>	個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもの個人ファイルなどは、事務所の鍵の掛かる場所で保管している。個人情報の保護のため、各寮では、子ども前で記録をしないことを徹底している。学校などの行事の写真の掲載については、児童相談所を通して保護者に可否を確認している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
<input type="checkbox"/>	権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

児童養護施設の職員は、子どもの権利擁護が基本であるという意識のもと、職員は「就業規則」やホームの「生活支援ハンドブック」を各自所持している。「生活支援ハンドブック」は、機会あるごとに内容を見直し、寮会議や部署別会議で読み合わせを行っていたが、コロナ禍で現在は実施していない。また、会議で支援の具体例を出し合い、こんな時にはどう対応したらよいかなど、子どもへの最善の対応を考える機会を設けている。ホームではキリスト教精神により日曜学校に参加しているが、中・高校生になると部活やアルバイトなどがあるため、参加は子どもたちの自主性に任せている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

入所時には、「子どもの権利ノート」により、児童相談所のケースワーカーが、個人の権利について説明している。ホームでも、幼児向けや小学生向け、中学生向け、高校生向けの「権利ノート」を作成し、担当職員から子どもたちにわかりやすく説明している。言いたいことは言っていんだよなど、いろいろな権利があることを具体的に伝えている。様々な権利があるとともに、ホームでの生活を知ってもらうための目的もある。他人を思いやる心は、日曜学校での話などから、子どもたちは日々学んでいる。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

乳児院から入所した子どもや、児童相談所の一時保護所から入所した子どもなど、子どもたちそれぞれの生育歴や背景を、全職員が入所時に把握している。乳児院からの子どもは、乳児院の職員と連携し、これまでの状況や発育の様子を確認している。子どもによって、生き立ちを伝えるタイミングは異なり、知りたい気持ちを発信してきた子どもには、児童相談所のケースワーカーに、どのように伝えていくか相談している。職員は、話をした後の子どもの心の変化に向き合い、フォローしている。また、聞きたい気持ちはあるが発信できない子どもには、児童相談所のケースワーカーに相談しながらプログラムを作成し、子どもの反応を見ながら伝えている。ホーム入所後、個人のアルバムを作り、担当職員と思い出を振り返りながら、成長を喜び合っている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
---	-------------------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

ホームの精神から、人に対し愛情を持ってかかわること、感謝することは、日々の生活の中で職員も子どもたちも祈りの中で体験しているため、基本的に不適切な行為はない。職員は、就業規則や「生活支援ハンドブック」などでも、子どもたちへのかかわり方を確認しながら支援している。また職員会議で、「養育ブック」の読み合わせを行っていたが、コロナ禍で現在は実施できていない。子どもとのかかわりで職員の心が揺れる時は、先輩職員が声掛けをしながらフォローしている。子どもの苦しみを抱え込んでしまう若い職員の心が疲弊しないよう、先輩職員が常に配慮している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、ケースワーカーにホームに来てもらい、子どもの状態など説明を聞いている。その後、ホーム内の入所調整会議を経て、受け入れの方向を決めている。職員は一時保護所に子どもの面接に行き、面接後、子どもにホームに来てもらい、子どもの意思を確認して入所を決定している。入所時は、前もって確認しておいた子どもの好きな物や食べ物などを準備して迎え入れている。年齢の近い子どもと一緒に遊ぶことができるよう配慮し、職員は常にかかわりを持ちながら信頼関係を築いている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

自立のための準備として、小学生には生活の中で、食器洗いなどできることを増やしている。中学生になると、高校進学を考え相談をしていくことが多くなる。進学するための情報を提供しながら、金銭面の相談、通学距離の問題など、主に寮の担当職員と話し合いを行っている。高校生になると、卒園や一人暮らし、就職、進学について、具体的に相談をすることが多くなる。費用について、それぞれ資金計画を立て、進学するにはこれくらいかかる、現在の自分の貯金額はなど、今後に向けた様々な支援を行っている。また、ホーム内にある自立体験棟で、一人暮らしの体験をすることもできる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
さまざまな体験や複雑な背景を抱えて、入所してきた子どもが多い。心に傷を負い、ホームの生活の中でも暗い影を落とす子どもの状況を、全職員が一人ひとりをよく把握し、子どものつらい心に向き合いながら支援している。日々の生活の中で、子どもが感情を職員にぶつけてきたときにはしっかりと受け止め、子どもの話を担当やリーダーの職員などがよく聞き、落ち着くのを待っている。危険が伴い、職員一人では対応が困難な時には、複数の職員で、他児の避難や当人の対応にあたっている。子どもの感情の表出をしっかりと受け止め、会議などで職員間の共有を行い、心理士などのアドバイスを受けながら対応している。		
②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○
【コメント】		
低年齢の子どもの入眠時は、子どもが眠るまで絵本を読んだり、スキンシップをとり、安心できるよう支援している。夜間の排泄に失敗した子どもは、叱責せず、すぐに清潔なパジャマや布団に替え、安心して入眠できるよう支援している。小学生は夕食前に入浴し、中・高校生は自分の生活リズムに合わせて入浴している。子どもと担当職員が1対1で話すことができる時間を作り、子どものニーズを確認したり、相談を受けたりしながら、信頼関係を構築している。食事量も年齢に応じて、子どもが満足できる量を提供している。		
③	A9 子どもを力を見て見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○

<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちは、自立支援計画の作成のため、次年度はどういう生活がしたいか、どんな目標を持つかなど、項目ごとに話し合い、子どもたち自身に考えてもらっている。日々の生活の中では、自分の意見を言い合える場を作っている。コロナ禍の中、一般家庭の子どもは外に出ているのに、なぜ外出できないのかなどの意見が出た時には、子どもたちが話し合い、携帯用のアルコールを持つ、マスクケースを持つ、店の前のアルコール消毒は必ず使用するなどのルールを決め、ショッピングや映画に出かけている。余暇時間は、子どもたちそれぞれが好きな遊びを行っているが、夏休みにプールに行けないため、大きめの簡易プールを購入し、少人数で楽しんでいる。夏休みのおでかけはコロナ禍で数年実施できていなかったが、今年は全体ではなく寮ごとに計画を立て、清里で宿泊体験をしている。登校日の前日には、子どもたちが自主的に宿題や準備を行っている。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

低年齢児は職員と一緒に公園で遊んでいる。中庭にはサッカーゴールやバスケットゴールがあり、高学年の子どもたちが楽しんでいる。緑や自然に恵まれ、子どもたちは虫を捕まえてペットボトルで飼育したり、自転車に乗ったり、年齢に応じて様々な遊びを楽しんでいる。各寮には、低学齢時のための絵本や童話、おもちゃなどがある。高学年のために、各寮で新聞を購読している。希望する小学生は、地域の公文式学習に通っている。中学生は塾に、高校生は予備校に通っている子どもがいる。各寮では、週1回時間を決めて、職員がプリントや宿題などを見て指導している。特別支援学級や特別支援学校に通学している子どももいる。それぞれの学校の先生との連絡は電話だけでなく、学校と施設を互いに行き来しながら、一人ひとりの子どもについて密に情報を交換して指導にあたっている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

日常生活の中で食事マナーなどを指導し、誕生日には担当職員と外食をするなど、社会のルールを学んでいる。小学校高学年くらいになると、洗濯をやってみようかなど自主的にやってみたいという気持ちが起こってくる。そのような機会に洗濯機の使い方を指導したり、家電の使い方を説明している。基本的に自分の部屋の掃除は自分で、低学年児は職員と一緒にやっている。お風呂やリビングなど共用の部分は職員が掃除をしている。コロナ禍で中断しているが、日曜学校の礼拝などで、してはいけないことなどを学んでいる。地域のお祭りでは太鼓をたたき、地域の方たちとの交流の中でも、挨拶をはじめ社会規範を学んでいる。携帯電話は、高校生がルールを決めて使用している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

栄養士が栄養バランスを考えて、バラエティに富んだ献立を作成している。食事は厨房棟で調理して、各寮の職員が三食受け取りに行っている。食事は色彩が豊かになるように工夫して盛り付けている。ご飯は寮内で炊き、子どもに合わせた量を提供している。寮内では皆で楽しく食事をしてきたが、コロナ禍により、現在はテーブルを離したり、黙食をしている。リビングには季節の装飾や行事の写真などを貼り、楽しい生活の雰囲気を醸し出している。ハロウィンやクリスマスには、栄養士が何が食べたいかを聴き取り、リクエストメニューとして献立に反映している。毎週日曜日は、ホットケーキやドーナッツなど、職員と一緒におやつを作り楽しんでいる。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

訪問調査時、子どもたちはみな、身体に合った可愛い服を着て遊んでいた。寄付やホーム内でのおさがりなどもあり、子どもたちの衣服は十分に揃っている。日頃の身だしなみは、同性の職員がアドバイスをやっている。高校生は、被服費の中から、自分の好きな衣服を一人で買物に行き、購入している。低学年の子どもは、職員と一緒に買物に行き、好きな洋服を選んでいく。七五三や入学式、卒業式などの行事には、ホームがスーツや着物を揃えて、お祝いに出席している。日常生活の衣類は、低学年の子どもは職員と一緒に整理整頓しているが、高学年の子どもは各自に任せている。衣替えなどは職員が手伝いながら行っている。衣類のほころびやボタンが取れた時などは、職員がすぐに繕っている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○

<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちが生活する寮は、2寮が左右対称につながった作りとなっている。室内には広いリビングとキッチン、洗濯室や浴室があり、子どもたちの個室が1階と2階にある。1・2階は吹き抜けとなっており、死角をできるだけ少なくするよう設計している。職員室は中央にあり、緊急時などは隣りの寮の応援ができるようにしている。子どもたちが学校に行った後、職員が寮内の掃除をしている。職員は声掛けをして、子どもの了解を得てから居室に入室している。リビングは広く、子どもたちはテレビを観たり、一緒に遊んでいる。居室には、好きなぬいぐるみやアイドルの写真などが貼ってあり、自分の居場所を確保している。毎週土曜日には、子どもたちと一緒に寮の清掃をしている。二抱えもある大きな木々に周りが囲まれているので、落ち葉が多く、毎週水曜日は職員が外掃除を行っている。網戸やドアノブのゆがみなど、職員が修理できるものは行い、できないものは業者に依頼している。

(5) 健康と安全

① A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎日の生活の中で、職員が子どもたちの健康チェックを行っている。発熱などの体調変化があるときは、すぐに看護師に連絡して、受診するか様子観察かを決めている。受診の場合は担当職員や看護師が付き添い、かかりつけ医で診察している。感染症の場合は、家族支援棟や閉鎖棟などを使用し隔離している。その他の場合は、自室で安静にして様子を見ている。てんかんのある子どもは定期的に受診している。精神科の薬を服用している子どもが多く、寮の担当職員が薬を管理し、服用するときは一人ひとり職員室に来てもらい、確認しながら服用している。子どもの健康に気を付け、特に帰宅時や食事前、トイレ使用時などの手洗い、うがいを徹底している。

(6) 性に関する教育

① A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生会や中学生会、高校生会など、子どもの年齢に合わせた集まりの場を設けている。それぞれの会は、子どもたちが意見を出し合う場として開催し、また、性教育についても年齢に合ったわかりやすい具体的な説明を行っている。特に夏休み前は、夏休みを楽しく過ごすためにというテーマで職員から性について話している。低年齢児には、プライベートゾーンってなんだろうなど、わかりやすく説明している。配慮が必要な中・高校生は、職員は気をつけて生活の様子を確認している。ボーイフレンドができて門限を過ぎても帰ってこないケースには、担当職員だけでなくリーダーや他ブロック職員と相談したり、時には、児童相談所の保健師にアドバイスをもらっている。性教育について、職員の勉強会も行ってはいたが、現在はコロナ禍で実施できていない。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

パニックや自傷他害など、行動上に問題がある子どももいる。子どもの行動上の問題に関しては、全職員がこれまでの行動を共有している。子どもが暴れたり、人を殴るなどの行動があったときは、他の職員に応援を頼み、他の子どもを避難させ、複数の職員で様子を見ていくようにしている。森の中を一緒に歩きながらクールダウンしていったり、落ち着いたら本人の話をよく聴き、その子どもの思いに寄り添って支援している。状況は児童相談所へ報告し、職員全体で共有している。職員の話し合いの中で、2～3日前から落ち着きがなかったなどの報告があり、その後の行動をよく観察するようにしている。問題行動の背景には、子どもの複雑な気持ちがあり、寄り添っていく職員が抱え込んで疲弊していくこともあるため、先輩の職員が必要な声掛けや対処を行っている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ESH(環境、安全・防災、健康)活動として、年2、3回、子どもたちからアンケートを取っている。アンケートでは、最近の良いことや嫌なこと、子ども同士の暴力やいじめなどを確認している。子どもから暴力の報告があると、担当職員は事実を確認し、子どもそれぞれの思いを聴き、どうしてそうなったか、子どもたち自身に考えてもらうようにしている。最近は、見えない所での暴力は減ってきており、子どもたちは落ち着いて生活を送っている。学力の差によるいじめや、国籍の違いによるいじめも発生していない。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ホーム内に2名の心理士を配置して、心理的ケアが必要な子どもに対し、心理療法室を使って心理的ケアを行っている。心理的ケアは主に面接形式をとっている。心理療法室では、子どもたちは落ち着いて面接を受けている。また必要に応じて、児童相談所のケースワーカーと連携し、状況を共有している。精神医療センターの協力を仰ぎ、年に1ケースくらいだが、医療的なアドバイスを受けている。心理士による職員の心理的ケアは、行っていない。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

日常の学習は、時間を決めて、職員がプリントを作成したり、宿題をみたりして、定期的に指導している。自分から塾に通いたいと希望する中学生は、塾に通っている。地域の公文式学習に通っている小学生もいる。大学受験のため予備校に通っている高校生もいて、学習意欲が高い子どもが多い。特別支援学級や特別支援学校に通っている子どももいる。学習が遅れ気味の子どもには、職員がプリントを作成し指導している。コロナ禍以前は、学習ボランティアに来てもらっていたが、現在は休止している。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

中学2年生頃から、高校に進学したい希望者が増えてくる。担当職員が主になり、どこの学校に行きたいかなど話し合い、希望の学校の情報を提供して、話し合いを進めている。中学3年生になると、より具体的に話し合い、模擬試験を受けたりして受験に向けた勉強を行っている。大学進学を希望する高校生には、卒業後の生活と、どこの大学を受験したいのか具体的に話を聴いている。資金計画を立て、学費と生活費の費用や預貯金の額を確認し、奨学金制度の活用や一人暮らしが可能かなどを決めている。今年度、高校3年生は全員大学への進学を希望し、すでに0A試験に受かっている子どももいる。自立支援棟には、現在学生が3人生活をしている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在、6～7人の子どもがコンビニエンスストアやスーパーマーケット、飲食店などでアルバイトを行っている。アルバイト先は、友だちの紹介や携帯電話から情報を得て、自分で見つけている。子どもたちはアルバイト先で社会のルールを学び、今後の生活資金を貯蓄したり、欲しいものを買ったりしている。特別支援学校の実習では、その子どもに合った職場体験を行っている。ホームの職員による職場開拓までは、実施できていない。就職先については、学校からの情報を参考にして決めている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所後の子どもの生活の様子や健康状態などは、担当職員が保護者に手紙や面会時に随時伝えている。ホームの生活で楽しかった写真などを添えて、成長の様子、学校での様子を、細やかに保護者に伝えている。便りで子どもの様子を確認して、保護者は子どもの成長に喜びを感じている。家庭支援専門相談員が、家族との連絡調整を行っており、手順を踏みながら、引き取りまでの支援を行っている。子どもとの関係に再構築が必要な家族への連絡は、児童相談所のケースワーカーと連携を取りながら行っている。ホームの行事に家族が参加することはないが、個別に面会に来てもらうことはある。家族との面会の後の子どもの心理的フォローは、全職員が行い、情報を共有している。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

近年、家庭に復帰した子どもは3名くらいである。現在、家庭復帰を目標に生活している子どもは2～3人いる。担当職員と家庭支援専門相談員が、家庭復帰への手順を踏んで、面会や外出、ホームの支援棟を使った宿泊訓練、1週間くらいの外泊、間隔をあけて半月くらいの外泊、児童相談所のケースワーカーを含めた振り返り、職員から子どもへの家庭復帰の意思確認、児童相談所のケースワーカーから家族への意思確認、転校手続き、家庭復帰の流れで行っている。さらに、復帰後は電話での連絡ができるようにしておくこと、住所を確認しておくことなど、困ったことがあったらすぐ電話をするように伝えて退所している。ホームでは家庭復帰に力を入れているが、実際に復帰できるケースは少ない。